

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070102582		
法人名	医療法人社団 稲葉会		
事業所名	芥見グループホーム		
所在地	岐阜市岩田東3丁目277番地1		
自己評価作成日	令和6年10月20日	評価結果市町村受理日	令和7年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Ijvsvocd=2170102582-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Ijvsvocd=2170102582-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和6年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・平屋建ての2ユニットで、渡り廊下でつながっており、自由に行き来出来ます</li> <li>・北側の居室でも天窓があり明るいです</li> <li>・畑や花壇があり、グループホームの庭を歩行運動したり、気候の良い日は近所へ散歩に行き歩行運動をかねて気分転換しています</li> <li>・コロナ後、月1回の外泊、外出が出来るようになり、ご家族との時間が自由に過ごせるようになりました</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>協力医でもある母体法人の医療的サポートを受けながら、利用者が安心して過ごせる体制を整えており、看取りケアにも取り組んでいる。運営推進会議は、家族が参加しやすい土曜日に開催するなど、家族との関係作りに努めている。感染予防対策を継続した上で、家族との面会・外出・外泊、散歩・レクリエーション・季節の行事、役割作りなどの機会を多く設け、利用者が穏やかにその人らしく過ごせる支援に努めている。管理者と職員は良好な関係を築いており、職員同士も意見交換や相談等を行いながら、日々、協力し合って業務改善などに繋げ、個々のモチベーションも高めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の・利用者本位・優しい心・笑顔・地域との交流を職員室に掲示し、常に職員が把握し穏やかに過ごせるよう相談し実践しています	理念を職員室に掲示し、ケアの振り返りを行いながら、実践につなげている。今年度は、理念を反映させたケアの強化に向けて、3カ月毎に目標の設定と振り返りを行い、理念の共有と実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、地域の情報を把握しています 回覧板は利用者と一緒に持って行き、挨拶し地域交流できるようにしています	近隣住民から、野菜や果物が届くことも多く、散歩の際にお礼や挨拶を交わしている。自治会に入会しているが、活動には参加していない。今後、地域の防災訓練等に職員が参加し、馴染みの関係作りに努め、事業所の避難訓練等協力を得られるよう取り組むとしている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	普段の様子や連絡事項、相談など家族の意見を聞き個々の向上が出来るようにしています	運営推進会議を土曜日開催にした事で、地域包括支援センターや民生委員に加え、複数の家族の参加を得ることができている。行政や自治会担当者の参加も得られるよう日程調整しながら、運営推進会議の機能強化を検討している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者、包括支援センターの方に、運営推進会議に出席していただき、意見や提案を頂いています 苦情についても相談しています	市の担当者とは、運営推進会議への参加を得ており、苦情対応の相談や、他事業所の入居状況などの情報を得るなど、電話やメール等でも連携を図っている。地域包括支援センター主催のネットワーク会議にも参加しており、良好な関係が出来ている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践しています 具体例を挙げ各棟の会議にて話し合っています 玄関施錠については利用者の様子を見ながら行っており介助中は安全な対応で見守りしています	身体拘束等適正化検討委員会と虐待防止等適正化委員会を年4回、同日開催している。チェックリストによる自己評価や会議等での振り返りを行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。研修は年2回、事例検討や学習会を行いながら、身体拘束をしないケアを徹底している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	振り返りシート使用、各棟会議にて対応の方法を話し合いをし虐待防止に努めています	身体拘束等適正化検討委員会同様、チェックリストによる自己評価や会議等での振り返りにより、虐待防止に取り組んでいる。職員同士で情報交換し、不適切ケアや洗い出したケアの改善点等を日々の支援に反映させ、虐待防止に努めている。	虐待防止等の項目も運営規定に盛り込まれたい。ヒヤリハットは、重複する事例であっても、報告として適切に記録を残すことで、虐待・身体拘束・事故防止にも繋がると思われる。対策についても職員間で共有、議事録にも残されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議にて伝達する事で、職員の理解や知識を身につけています		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき、利用者、家族に詳しく説明し、疑問等に関し十分な説明、対応をする事で理解を頂き同意を得ています 改定の際は同意書を頂いています		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの希望や要望はいつでも話を傾聴しています 面会の際に様子の報告をし、電話で家族様の要望や話を伺っています	利用者の思いや希望を聴き、サービスに反映させている。家族には、面会時や電話、LINE等で意見や要望などを聴いている。最近ではLINEで連絡を取る家族が増えており、利用者の写真を添付し報告するなど、密に連絡を取っている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から代表との意見交換を行っており管理者が現場に入る事で、管理者と職員の話しやすい環境作りをしています	管理者やリーダー、職員との関係は良好で意見や提案を聞き取り、互いに相談がしやすい関係にある。管理者が職員の意見や要望を受け止め、迅速に対応しており、職員のモチベーションの向上に繋がっている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	個々の職員の事情を把握し、各自が向上できるように又管理者や職員の考えを聞き、やりがいのある職場環境に努めています	各棟と2階に休憩室兼事務室があり、休憩しやすい環境が整っている。ワーク・ライフ・バランスに配慮しながら、希望休や連休取得がしやすいよう柔軟に対応している。人手の必要な時間帯に職員配置を増やすなど、業務改善に取り組み軌道に乗り始めている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ひとりひとりの心のケア、接遇対応の先生との相談をする時間があります 管理者研修に参加し相談する機会があります	理念を実践に結び付けて充足するため、3カ月ごとに目標を立てている。さらに3カ月毎に振り返りを行い、課題を出し合っている。管理者は、職員個々の目標と共に、描く将来像に向けて、研修に参加できるよう配慮しており有資格者が多い。	設定した年間目標の到達に向け、3カ月後の短期目標を設定し、その後、3か月毎に振り返りと次の目標設定を繰り返すことを提案したい。課題と対策を職員間で共有し、年間目標が達成され事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	東部地区のほっとメイト会に参加し、情報収集や意見交換、相談をしながらサービスの向上につながるようになっています		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族には、ホームからの新聞や電話で様子を伝え、家族にしか出来ない事は協力して頂いています		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の思いを把握しています 困難な人は、表情や動きを観察し、家族からも情報を得るようにしています 生活記録、申し送り情報で共有し統一したケアを行っています	現在は、思いや希望などを表出できる利用者が多い。意思表示が困難な場合は、表情・反応から得た情報を職員間で分析し対応している。携帯電話を操作できる利用者も増えており、利用者自らが家族に意向を伝え、家族から情報を得る場面も増えてきている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方について常に相談しそれぞれの意見も参考にしています 気付いた事やアイデアをすぐに話し合える環境があります	医師や看護師の意見を事前に得て、家族の面会時に聴取した意見・希望・要望を棟会議で検討し、プランの見直しを行っている。ケアプランは、定期的なモニタリング時や利用者の状態変化があった際には見直しを行い、家族の承認を得ている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケアプラン経過記録、生活記録を記入し職員間で情報を共有しています 記録を参考にすると共に、各棟会議で話し合いの場を設け、介護計画の見直しをしています	ケアプランを反映させた支援を実践し、タブレット端末の介護記録簿に入力している。身体拘束や虐待、ヒヤリハット・事故に関する内容も介護記録に入力し、全職員で共有し、会議や申し送り時の事例検討に活用している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の希望、又職員の要望もあり、買物、病院受診等の支援をしています 気分転換に、外出をし柔軟な支援に心掛けています 外部のヘルパーに依頼する事もあります	東部地域包括支援センターのメイト会に所属しており、会議や研修、地域への発信事業などに参加している。認知症のサポーターズテップアップ研修の受入れも登録している。現在も、感染症予防対策として、ボランティアは受け入れていない。	

岐阜県 芥見グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入しており、ホームの近くを散歩して近所の方との触れ合いを心がけています		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特に外部の受診に関して、かかりつけ医には文章で状態を伝えるようにしています	入居後は、母体法人の診療所医師が利用者の健康管理を担っている。従前のかかりつけ医や精神科、歯科等の受診時は、日々の状態を把握している職員が、家族に同行して説明するなど、利用者が適切に医療が受けられるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、相談員との情報交換を密にし、本人、家族が安心出来るような対応を行っています また早期退院が出来るように医療機関との連携を図り、退院後の対応も指示を受けながら行っています	入退院時には、サマリーで情報共有をしている。入院中の状況や退院準備については、医療機関と連携し、退院後もスムーズに生活ができるよう受け入れ体制を整えている。入院期間や状態によっては、利用者の帰宅場所が変わる場合もあり、家族と相談しながら、支援している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化のあった方は常に主治医に報告するようにしています 終末期のあり方については、主治医、家族、職員をまじえて説明、どのような方針か話しをし、看取り介護の契約をします	看取りケア時には、家族と話し合いながら、事例検討会を行い、利用者と家族が安心して穏やかに過ごせる支援に取り組んでいる。看取り後は、デスクカンファレンスを実施し、看取りの経過とケア状況、職員の葛藤や不安等の解決策など、経験した事を詳細に記録し共有する事を検討していくとしている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時は速やかに主治医へ連絡し指示を受けながら対応しています		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災を想定した訓練、水害を想定した訓練を行っています 災害食作りも毎年行っています	火災・水害時を想定した避難訓練を、臨場感を持って実施している。避難訓練の日に、災害用備蓄食やローリングストック等で、避難時の食事を体験している。今後、BCPの中に地域住民の協力体制、役割り等を具体的に挙げ、協力の依頼を進めるとしている。	地震発生時の居室及び共用空間内の家具転倒や、引き出し・備品の散乱などへの対策、持ち出し袋の準備等が必要と思われる。また、地域の防災訓練に参加するなど、地域住民の協力が得られるよう協力体制作りを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を忘れず、個々の人格を尊重した声かけを行い、カーテンや暖簾でプライバシーを損ねないようにしています	居室入り口に暖簾を掛け、プライバシー保護に努めている。希望者には、同性介護を提供する等、常に、利用者個々の尊厳・プライバシーを大切に支援している。また、利用者の状態によっては、職員同士が声をかけ合い、状況に応じて交代するなど、穏やかなケアの提供に努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築いていく事で希望や、思いを伝えやすく、自己決定できるような声かけをしています		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や心情に合わせた対応を心掛けています		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には旬の野菜を取り入れ、味付けや簡単な料理は利用者も手伝っています 洗いものや、食器、お盆拭きは積極的に行って頂いています	管理栄養士指導のもと、担当する職員が昼食を手作りしている。調理担当の職員が不在の日や、時間帯によっては、職員が外注の調理済み冷凍食品に加え、手作りの副菜と共に食事を提供している。洗い物などを手伝える利用者は、職員と一緒にいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録に残し、食事の際のお茶も摂取出来ているか確認しています 管理栄養士指導の下、水分制限、塩分調整のある方は一回の食事で個々に合わせて工夫しながら支援しています		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛けをし出来ないところは援助しています 歯磨き困難な方は、スポンジや舌用のブラシを使用して口腔ケアをしています	口腔ケアを自分で出来る利用者は、見守りで支援し、介助が必要な利用者は、状態に応じた方法で朝・夕の口腔ケアを実施している。昼は、希望者のみ実施している。訪問歯科は、希望利用者のみ利用している。	

岐阜県 芥見グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて、オムツ使用の方でも立位可能な方、介助にて座位が出来る方は日中はトイレ誘導を行い、トイレで少量でも排泄が出来、気持ちよく過ごせるよう自立に向けた支援をしています		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は何時でも入れるように準備しています 汚染の場合や、家族との外出など、個々に沿った支援をしています		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターン、生活パターンを把握し、日中横になり休んで頂く方もみえます		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員がいつでも薬の内容を確認できるようにしています 薬の準備は訪問診療で話したことを申し送り、また職員2人以上による薬の確認をしています	薬局から届いた薬剤を管理者と職員が専用のストック箱に分別し、内服日に職員二人で、朝・昼・夕の専用ボックスに再セットしている。日付と名前をダブルチェックした上で利用者に手渡し、確実に飲み込んだことを確認している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や役割を見つけ、その人らしい生活が送れるように支援していきます	洗濯物たたみ、食事の準備や片付けなど、利用者が自由に参加できるような環境を整えている。リハビリ体操、習字、作品作り、歌などのレクリエーション、毎月の季節行事を計画的に組み入れ、忙しさのため実施できないことがないよう取り組んでいる。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常はホームの庭か周辺を散歩しています 季節を味わっていただけるよう、春は花見、秋は紅葉狩りにて公園の散歩やドライブに出かけます コロナ後、家族との外出外泊ができるようになりました	天気の良い日は、職員と利用者2-3人で近隣を散歩している。毎月、季節の行事として、ドライブや紅葉狩りなど外気に触れられる機会作りに努めている。家族との外出や月1回の外泊が解禁となり、利用者が家族と出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はお金を所持していません。家族と相談し、千円程度持たれ安心される方もみえます		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より希望があったとき電話を掛けるように支援しています 又携帯電話使用される方が増えていますが、うまく使えない事があり、一緒に使用する事もあります		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に色とりどりの花を植えたりしています 談話室にも季節の花をかざり、季節を感じられるようにしています 食事以外は固定された場所を作らず、居心地良く過ごせる場所に移動し過ごしています	共用部分や居室には大きな窓がある。建物が南に面しており、明るい陽光が差し込み、静かで清潔な居心地良い空間となっている。2つの棟が面会室を境に連結されており、広々とした開放的な空間となっている。庭の花壇や畑もあり、利用者が楽しめる環境である。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が近くの席で座れるよう配慮しており、会話や会話やレクリエーションを楽しんだり一緒に洗濯たたみ等されています また雑誌や新聞を見たり等、個々のペースで過ごせるような環境作りをしています		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	気の合う利用者同士が近くの席で座れるよう配慮しており、会話やレクリエーションを楽しんだり一緒に洗濯たたみ等されています また雑誌や新聞を見たり等、個々のペースで過ごせるような環境作りをしています		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険のないように家具の配置を工夫し、身体状況に応じて安全に移動ができるよう配慮しています		